

2トンコンテナ利用の少量長距離引越商品「単身パックX」発売

大型家具や自転車も運べ、鉄道輸送で環境にも優しい

日本通運

日本通運（本社・東京都港区、川合正矩社長）は6月28日、鉄道2トンコンテナを利用した、単身者向け少量長距離引越パック商品「単身パックX（エックス）」の発売を開始した。

同社はこれまでも、鉄道2トンコンテナを利用した引越を行っていたが、新商品はこれを区間別に設定したわかりやすいパック料金とし、全国主要都市を中心としたエリア限定で展開する。

「単身パックX」は、従来の単身者向け少量引越パック商品の「単身パックS（エス）」や「単身パックL（エル）」で積むことができなかった大型家財や自転車なども積載できるのが大きな特徴。また、鉄道輸送を利用した安価で環境にやさしい引越サービスとなっている。



単身パックXの2トンコンテナ

「単身パックX」の概要は次の通り。

【商品名】 単身パックX（エックス）

【専用輸送容器サイズ】 専用の2トンコンテナ。内寸は、長さ2.279m×幅1.649m×高さ1.989m（=7.47m³、押入れ2間半程度）

【特長】 ①単身パックSや単身パックLに入らない、自転車やベッドなどの大型家財も積載できる（単身パックL3基分以上の容積をもつ）、②区間別に設定した安価でわかりやすいパック料金（土日祝日の割増料ゼロ）、③鉄道輸送を利用した環境配慮型の引越サービス、④スピーディな輸送ができる（例えば、東京～大阪・名古屋などは最短で翌日配達が可能）、⑤利用者の要望に応じて5日間まで無料で荷物のコンテナ保管ができる一など。

【取扱期間】 通年（ただし、3月20日～4月10日の繁忙期は除く）

【取扱地域】 札幌市、仙台市、東京23区、さいたま市、名古屋市、大阪市、広島市、福岡市を中心とする地域。取扱エリアと作業の流れは別掲。

【料金設定】 梱包・搬出・輸送・搬入・解梱及び保険費用を含んだわかりやすいパック料金（梱包・解梱は大型家財のみ）とした。例えば、東京23区内～大阪市内が6万1800円（税込）、東京23区内～福岡市内が7万7800円（税込）。

パック料金表（単位・円）

	北海道	宮城県	東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県	愛知県	大阪府、兵庫県	広島県	福岡県
北海道		76,800	77,800	79,800	80,800	96,800	102,800
宮城県	76,800		58,800	67,800	74,800	84,800	91,800
東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県	77,800	58,800		59,800	61,800	72,800	77,800
愛知県	79,800	67,800	59,800		53,800	63,800	68,800
大阪府、兵庫県	80,800	74,800	61,800	53,800		55,800	63,800
広島県	96,800	84,800	72,800	63,800	55,800		54,800
福岡県	102,800	91,800	77,800	68,800	63,800	54,800	

※梱包・搬出・輸送・搬入・解梱・設置・保険(300万円付保)を含んだパック料金。

※上記料金は消費税を含む。

※大型の家具・家電の梱包に使用する梱包資材以外で、ダンボール等の消耗資材を使用する場合は別途料金となる。

※作業時間は9時～18時を基本とし、夜間(18時～20時)の配達は2100円/件の割増しとなる。

HJ 引越情報 FAXサービス NO.669 (6月29日火曜日)

取扱エリア

北海道	札幌市、恵庭市、江別市、北広島市、長沼町、南幌町
宮城県	仙台市、名取市、岩沼市、塩釜市、多賀城市、七ヶ浜町、富谷町、利府町
東京都	東京23区、清瀬市、国立市、小金井市、国分寺市、小平市、狛江市、調布市、西東京市、東久留米市、府中市、三鷹市、武蔵野市
埼玉県	さいたま市、上尾市、朝霞市、入間市、桶川市、川口市、川越市、坂戸市、狭山市、志木市、草加市、鶴ヶ島市、所沢市、戸田市、新座市、鳩ヶ谷市、飯能市、東松山市、日高市、富士見市、ふじみ野市、三郷市、八潮市、和光市、蕨市、川島町、三芳町
千葉県	市川市、浦安市、鎌ヶ谷市、習志野市、船橋市、松戸市
神奈川県	横浜市(青葉区、緑区を除く)、川崎市(麻生区、多摩区を除く)
愛知県	名古屋市、愛西市、あま市、大府市、北名古屋市、清州市、東海市、津島市、豊明市、弥富市、大治町、蟹江町、東郷町、飛島村
大阪府	大阪府内全域
兵庫県	神戸市東灘区、芦屋市、尼崎市、伊丹市、川西市、宝塚市、西宮市
広島県	広島市、廿日市市、海田町、熊野町、坂町、府中町
福岡県	福岡市、大野城市、春日市、古賀市、太宰府市、筑紫野市、宗像市、宇美町、粕屋町、篠栗町、志免町、新宮町、須恵町、那珂川町、久山町

作業の流れ



- ①(搬出)＝旧居からお荷物を搬出後、トラックで最寄の駅まで運ぶ。大きい物(家具類や家電製品等)の梱包は、作業スタッフが当日行う。利用者は前日までに小物の箱詰めを行う。
 ②(輸送)＝最寄の駅から着駅までは、貨物列車でお荷物を運ぶ。
 ③(搬入)＝着駅からトラックで新居にお荷物を運ぶ。

「単身パックX」の割引サービスとしては、他の単身パックと同様、インターネットから申し込むと1件あたり2100円(税込)の割引を行う。そのため、ほぼ同等の荷物量となる単身パックL3基と単身パックX1基の料金を東京から大阪に引っ越す場合で比較すると、単身パックL3基が「8万1900円－インターネット割引2100円－複数基割引1050円×3基＝7万6650円」、単身パックX1基が「6万1800円－インターネット割引2100円＝5万9700円」となり、単身パックX1基を利用した方が1万6950円安くなる。また、引越料金に応じて、JALやANAのマイレージや今年4月から始めたPontaカードのポイントも貯めることができる。

同サービスでは荷物を届ける時間帯を選択することもできる。取扱エリア別で2種類の時間帯を設定。お届け時間帯1の場合、①午前(9時～12時)、②午後(13時～18時)、③夜間(18時～20時)の3時間帯。同2の場合、①午前(9時～10時30分)、②午前(10時30分～12時)、③午後(13時～16時)、④午後(16時～18時)、⑤夜間(18時～20時)の5時間帯から選ぶことができる。

荷物の搬出・搬入はスタッフ2名で対応するので重い荷物も安心して任せることができる。

■日本通運・単身パックX http://www.nittsu.co.jp/hikkoshi/moving/tanshinpack_x.html

事業再編で引越事業と機工事業を9月30日付で廃止 市場成熟化。業績改善と事業拡大が困難に

バンテック

バンテック（本社・川崎市川崎区、山田敏晴社長）は、オフィス移転を中心とした引越事業と重量物の運搬や機械の据付を行う機工事業について、9月30日付で廃止することを決めた。今回の事業再編は、両事業の経営資源を主力事業の自動車部品物流事業や今後強化する食品物流事業などへ戦略的に振り向け、成長戦略を加速させるため、としている。

6月23日に発表した事業再編の内容は次の通り。

【事業廃止の理由】 自動車生産工場の大型機械などの据え付けを行う機工事業は創業翌年の1955（昭和30）年から、またオフィス移転を中心とする引越事業は1983（昭和58）年に本格参入して以来、事業の拡大に取り組んできた。

しかし、ますます市場が成熟化し、競争が激しくなる事業環境のもと、機工事業は主要顧客の海外生産の加速、引越事業はオフィス需要の停滞などの市場環境から、将来的に需要の大きな伸びが期待できず、今後の業績改善と事業拡大を見通すことが非常に難しくなっている。

このような事業環境の中、将来的な展望を踏まえて引越事業と機工事業の方向性を検討した結果、両事業を廃止するとともに、両事業の経営資源を主力事業と成長事業へ移管し、「事業の選択と集中」を進め、新たな成長戦略を追求することとした。

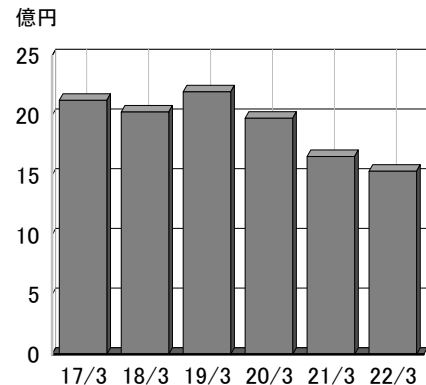
【撤退する事業の概要】 ①事業の内容＝引越事業は、オフィス移転など法人向けを中心とした引越業務。機工事業は機械設備、車両組立設備などの重量物の解体、輸送、据付、撤去、試運転等。

②売上高（平成22年3月期）＝引越事業は15億3400万円、機工事業は7億9700万円。

③従業員数＝75名（従業員は原則として主力事業を中心にグループ内での配置転換を行う）

■バンテック <http://www.vantec-gl.com/>

引越事業の売上高推移



引越事業の売上高推移

	売上高	増減率
17/3	2,128	▲2.9
18/3	2,030	▲4.6
19/3	2,199	8.3
20/3	1,978	▲10.1
21/3	1,657	▲16.2
22/3	1,534	▲7.4

※売上高・百万円、増減率・%

東京・晴海にツインタワーの超高層マンションを開発 2棟・計1800戸を建設。1棟目883戸は2014年に完成

三菱地所・鹿島建設

三菱地所（本店・東京都千代田区、木村恵司社長）は6月15日、鹿島建設（本社・東京都港区、中村満義社長）と共同で東京都中央区にツインタワーの超高層マンションを開発する計画の新築工事に着手したと発表した。東京湾を望む「晴海二丁目土地区画整理事業」の用地（2.9ヘクタール）に2棟合計で1800戸のマンションを建設。49階建ての1棟目（883戸）は2014年3月に完成する。2棟目の着工時期は未定。

三菱地所は1980年代にウオーターフロント（水際）再開発の一環として、日東製粉（現・日東富士製粉）工場跡地を取得。近隣の日本水産工場跡地と合わせて大規模マンション開発を計画していた。晴海二丁目エリアで、三菱地所は特定目的会社（SPC）を通じたオフィスビル整備も進めている。

今回新築するマンションは大地震に強い免震構造を採用し、耐久性が高い「長期優良住宅」の認定も取得したのが特徴。施工は鹿島が担当する。マンション開発の総事業費は明らかにしていない。

■三菱地所 <http://www.mec.co.jp/>

■鹿島建設 <http://www.kajima.co.jp/>

企業の借り上げ社宅の事務手続き代行サービスを強化 受注戸数、現在の5倍の5万戸に引き上げる

レオパレス21

レオパレス21（本社・東京都中野区、深山英世社長）は企業の借り上げ社宅の事務手続き代行サービスを強化する。インターネットを使ってサービスを簡素化できるシステムを開発、手数料や労務コストを抑えられる点を売り込み、受注戸数を2011年度末までに現在比5倍の5万戸程度に引き上げる。景気低迷で自社物件への入居率が落ち込む中、社宅代行サービスを強化して顧客を囲い込む。

インターネットで部屋探しから退去後の精算まで簡単にできるシステムを開発し、9月に導入する。子会社で社宅代行サービスを手掛けるレオパレス・リーシング（本社・東京都新宿区、笹原邦昭社長）がメーカーなど企業に拡販し、同様のシステムをすでに運用している他社を追撃する。

これまでは物件を決める際には、同社と用紙を使ってFAXや郵送で同社とやり取りする必要があった。家賃の精算などもすべて企業の総務部など管理部門が手作業で計算しなければならなかった。

新システムでは作業すべてをWEB（ウェブ）上で完結でき、計算や請求に伴う労務コストを大幅に抑えられる。手数料も、従来のシステムに比べ1～2割程度引き下げられるという。

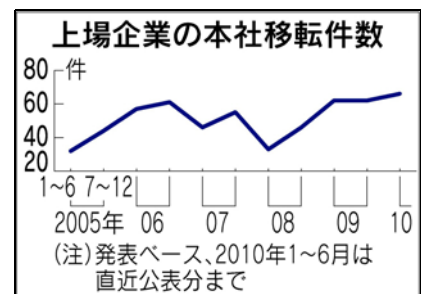
同社は現在、1万戸程度の借り上げ社宅を受注している。新システムの導入で利便性の向上や低コスト化をアピールし、2012年3月期までに5万戸以上に引き上げる。

借り上げ社宅は家族向け物件の需要が強い。同社は単身者向けの物件を得意とするが、最近では安定した入居率を計算できる家族向けの物件に力を入れている。

今年1～6月の移転発表企業は66件。過去5年間で最高 コスト削減や財務改善。割安物件増え将来の業容拡大に備える

上場企業

上場企業の間で本社を移転する動きが高水準で続いている。日本経済新聞社の調査によると、2010年1～6月（16日まで）に移転を発表した上場企業は66件と半年ベースでは過去5年間で最高となった。景気低迷で収益力が低下し、業績改善に向けて賃料などのコストを削減する企業が多い。都心部でも割安な物件が増え、将来の業容拡大を見込んで好立地に進出する会社も目立つ。



上場企業の開示資料をもとに集計した（子会社や地域本社など含む）。

移転件数は08年1～6月に40件弱に減ったが、リーマン・ショック後の09年1～6月には60件強と急増。その後も高水準が続いている。移転理由で多いのがコスト削減や財務改善だ。

パイオニアは昨年11月、川崎事業所（川崎市）に本社を移転。東京都目黒区のビルと土地を売却し、11年3月期に52億円の譲渡益を計上する。アパレル大手のサンエー・インターナショナルは来年3月、東京都世田谷区の再開発ビルに移転。年間約5億円の経費節減を見込む。

都内を中心に賃貸物件の需要が低迷し、賃料が割安になっていることも背景にある。東京都心5区では、オフィスビルの空室率が5月末まで4ヵ月連続で過去最高を更新した。

業績が堅調な企業にとっては、増床や好立地への移転を進めやすくなっている。半導体開発のザインエレクトロニクスは今年1月に東京都千代田区に本社を移転。2地域に分散していた本社機能を東京駅近くのビルに集約した。賃料は上昇したが、将来の業務拡大を見据えて決めたという。

09年5月に東京都千代田区の経団連会館に入居したカブドットコム証券も、顧客の利便性向上や金融機関との連携強化を重視した。移転先は都心のほか、品川区など南部の人気が高いという。